

第1回万博ロードマップ検討会における主な意見

■京丹後市の目指すべき姿・目標

- ・ 万博で一番大事なことはビフォーアフターで、2025年から始まるということ。何をしたのかではなくて、2025年以前には気が付かなかったことを、2025年の時に多くの京丹後の市民が気付いて、2025年から変わっていくというのが成果
- ・ おもてなしの心をもって、他市町と連携しその通過点で京丹後にもどうぞお越しく下さいというような、アピールの仕方も重要である。
- ・ 近隣連携については、各市町のポジションも見定めながら、「丹後」というエリアで一体となった連携を考えてみることも重要ではないか。
- ・ 観光として、どんどん若狭や鳥取とか、そのあたりをどのようにつなげていくのか公社でも真剣に考えている。
- ・ 丹後圏管内、あるいは京都府北部全体、また京都府を引っ張っていけるようなものになることを期待している。
- ・ 健康は、万博のテーマと重なるため、ヘルスツーリズムを売りとできる。近隣との連携は丹後だけではなくて、鳥取、兵庫含めたジオパーク120キロの海岸線をどう活用していくのかということも射程に入れるような議論につながると思う。
- ・ 丹後の健康長寿のアイデアが世界にこう生かされるみたいな、あるいは高校生向けの意見交換会で海外の高校生と丹後の高校生が何かコラボで何か生み出すようなことになると、国際博覧会らしさが出る。
- ・ その中で丹後が際立つためには、京丹後が光り輝くためには、わざわざ京丹後を最終目的地として、途中で万博会場を見るような、そういう発想も一方で大事になる。
- ・ モデルツアーをするが、ジオパークの横連携で、福井、丹後、城崎から鳥取のルートをきっちりとしようと。万博の時にここが国際的な観光地になればということで、今検討をしている。
- ・ アフター万博以降には、もっと丹後を目指してくる数のような、そのようなことも意識して展開していく。そこを目掛けて万博でどのようなものを出していくのかというところを、何か考えていくのがよいのではないかと感じた。
- ・

■京丹後市の魅力・強み

- ・ 織物、丹後ちりめん、シルクの良さというところ、絹は臭いが付きにくいとか、UVカットの効果があるとか、いろんな効能があると言われており、それらを活かした新しい織物、未来に向けた宇宙服などを丹後から発信していければ良い。
- ・ 産業でいうと織物、機械金属業、歴史も丹後半島の中にはたくさん古墳もあり日本の表玄関と考えられていたという点もある。
- ・ 京丹後は長寿の町で、府立医大と研究をしていることもあり、大阪観光局等と26日に連携

協定

- ・ 京丹後が生み出した百寿率というキーワードは、これがグローバルワードになる可能性があると思う。
- ・ 京丹後市の強みである健康寿命、自然、歴史、文化などを、出店や展示を通して魅力を伝えることができた。
- ・ 丹後の強みはジオパークにあると思っている。
- ・ 丹後の魅力である自然、山、海、食はどこの地域でもあるものではなく、丹後だからこそあるものだと思う
- ・ 丹後管内の食は食材を含めていろいろなものが豊富
- ・ 京丹後は健康長寿の町で健康で長生きをされている方もたくさんおられる。
- ・ ものづくりにおける丹後の強みが、場所も含めて、歴史、文化などすべて揃っている。全部揃っているという中に、やはり産業や技術があり、ものづくりと上手く結びついていくところが、最大の強みではないかと思う。
- ・

■具体的な取組

- ・ 宇宙服とシルクもわくわくする。実際に着られれば、集客効果も期待できる。
- ・ 健康長寿の取り組みの中で誰1人置き去りにしないということで、100歳活力推進の取り組み
- ・ 京丹後市の魅力として長寿という言葉が出てくるが、それだけを取り上げると何だかすごく少子高齢化の高齢化社会という感じのイメージが強くなる。高校生の方が、丹後万博のときに長寿食などの魅力を語ってくれ、そういう若い人たちにどんどん京丹後の長寿を語っていただくことで、それが大きく前に出ていくのかなと少し安心した。
- ・ 長生きの話が若者が発信するのはとても大事な視点ではないかと思う。若者とこの長寿社会、この切り口も本当に大事。
- ・ 世界の都市に向けての歴史発展。古墳もあるが、宇宙服にもなりうる絹素材をさらに開発されている誇るべき都市だと思う。
- ・ 最大のコンテンツとしての百寿。長生きが幸せだと思うが、長生きするだけではなく、ハッピーだと思えることが百寿の寿だと思っている。